

# 令和8年度 部局マニフェスト

## ～私たちの組織使命と目標～

|     |              |
|-----|--------------|
| 部局名 | 地域連携部        |
| 役職  | 部長           |
| 氏名  | 百田 貴子        |
| 連絡先 | 0595-22-9639 |



業績目標の標語(指導者評価)  
 目標としていた達成水準を上回る成果を出した(100%超)  
 目標としていた達成水準に到達した(100%)  
 わずかに目標の達成水準に達しなかった(90%以上100%未満)  
 目標の達成水準には届かなかった(60%以上90%未満)  
 目標の達成水準までは遠い結果となった(60%未満)  
 目標達成のための取り組みが見られなかった

| 業績目標   | 表題               | 現状や課題   | 達成水準<br>(どこまでできれば達成したといえるか)  |
|--------|------------------|---|--|
| ◎部局目標1 | 関連の施策・基本事業No 3-8 | <p>〈これまでの経緯〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治基本条例に基づく住民自治のしくみによりその推進を図ってきた。</li> <li>地域活動の担い手不足や運営スタッフの高齢化が顕著となる中、将来を見据えて、R7に「住民自治のあり方検討委員会」を立ち上げ、これまでの取り組みの検証と今後の住民自治の目指すべき姿、支援策について検討している。</li> </ul> <p>〈現状分析〉</p> <p>将来を見据えて、住民自治協議会が地域課題の洗い出しや事業の見直し、事業目的の再検証などを協議する必要性が生じてきている。</p> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情勢の変化に伴い、住民自治協議会の役割を再確認する必要がある。</li> <li>住民自治協議会の役割や活動内容についての住民の認知度を高め、参画者を増やす必要がある。</li> <li>まちづくりへの多様な世代の参画を促す動機付けや工夫が必要である。</li> </ul> | <p>〈目標数値〉</p> <p>住民自治のあり方検討委員会の答申を踏まえた今後の方向性を39の住民自治協議会に個別に説明する。</p> <p>〈達成された状態〉</p> <p>各住民自治協議会で、地域課題の洗い出しや地域まちづくり計画の見直しなど将来を見据えた話し合いができる準備が整っている。</p> <p>〈手段・工程〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員会を開催(3・4回程度)し、目指す姿案、支援策の検討協議</li> <li>答申を受けての庁内協議</li> <li>地域支援担当者の研修実施</li> <li>住民自治協議会単位で説明会を開催</li> <li>支援策の見直し検討</li> </ul> |

| 達成状況<br>(自己評価) | 理由 |
|----------------|----|
|                |    |

|        |              |     |  |   |
|--------|--------------|-----|--|---|
| ◎部局目標2 | 関連の施策・基本事業No | 3-8 | <p>〈これまでの経緯〉<br/>         地域担当職員が地域に赴き、住民自治協議会等とコミュニケーションを図っている。</p> <p>〈現状分析〉<br/>         ・地域の課題を把握するように努めている。<br/>         〈課題〉<br/>         ・地域ごとに課題が多様化し、画一的な行政支援では対応しきれなくなっている。<br/>         ・課題解決に向けた柔軟な提案ができるよう住民自治協議会との信頼関係を強化する必要がある。</p>  | <p>〈目標数値〉<br/>         意見交換会の回数(代表者会議4回、各自治協との意見交換会2回)</p> <p>〈達成された状態〉<br/>         地域にかかわる住民や関係団体が多様な課題について、意見が出し合える場ができています。</p> <p>〈手段・工程〉<br/>         ・地域代表者会議の実施<br/>         ・まちづくり計画の見直しに関する意見交換会の開催</p>   |
| ◎部局目標3 | 関連の施策・基本事業No | 3-8 | <p>〈これまでの経緯〉<br/>         令和9年4月の柘植中学校と霊峰中学校の統合に向けて、「いがまち地区中学校区再編検討協議会」において協議が進められている。伊賀支所管内の3つのまちづくり協議会会長が協議会の会長・副会長(2人)として参画している。</p> <p>〈現状分析〉<br/>         ・通学方法が地域によって異なる。<br/>         ・被差別地域を持つ学校と被差別地域を持たない学校との統合である。<br/>         ・統合の学校区に3つのまちづくり協議会が存在する。<br/>         ・統合により移転となる柘植中学校が指定避難所となっている。<br/>         〈課題〉<br/>         ・地域のまちづくり計画を改正する必要がある。<br/>         ・子ども・保護者・地域によって、人権に対する知識や意識に温度差がある。<br/>         ・支所とまちづくり協議会とのコミュニケーションを強化し、中学校統合を契機に課題解決に向けた柔軟な提案が相互に出来るよう信頼関係を更に築く必要がある。<br/>         ・統合により指定避難所や防災に関する事項を再構築する必要がある。</p> | <p>〈目標数値〉<br/>         定期的(月1回)に3つのまちづくり協議会と地域まちづくり計画改定に係る協議の場を持つ。</p> <p>〈達成された状態〉<br/>         現在の地域の実情に応じた計画に基づき、子どもから大人まで活動や取り組みが出来る準備が整っている。</p> <p>〈手段・工程〉<br/>         ・各住民自治協議会とのコミュニケーション、信頼関係の強化<br/>         ・管内の3つのまちづくり協議会と月1回は話し合い、地域課題を共有する。<br/>         ・計画の改定協議に支所担当者が参画するとともに、担当部署との協議を要する場合は、つなぎ役になる。</p> |

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|  |  |

|  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|
| <p>◎部局目標4</p> <p>地域の活力を維持した魅力ある地域づくり</p> | <p>関連の施策・基本事業No 3-8</p> <p>持続可能な地域活動の支援<br/>(島ヶ原地区)</p>                      | <p>〈これまでの経緯〉<br/>・地域主体で地域絆づくり補助金やキラッと輝け！地域応援補助金を活用し、地域の活性化を継続的に図っている。</p> <p>〈現状分析〉<br/>・地域の歴史、文化、自然といった地域資源を次世代へ継承することや地域農業における耕作放棄地を負の遺産から地域の資源へ転換することが極めて重要である。</p> <p>〈課題〉<br/>・まちづくり協議会の活動における人材不足や担い手の固定化が進む中、活動を無理なく継続するための工夫と新たな取り組みを進める上で直面する課題について整理する必要がある。</p>   | <p>〈目標数値〉<br/>・まちづくり協議会会議への出席率を100%とする。<br/>・まちづくり協議会が実施する事業や地域課題についての協議の場を年に2回以上持つ。</p> <p>〈達成された状態〉<br/>計画された事業が順調に実施され、次年度へ引き継がれている。</p> <p>〈手段・工程〉<br/>・定期的に関催されるまちづくり協議会会議に職員が参加し、現場の声を聴く。<br/>・活動で抱える問題を共有する。<br/>・課題発生時は、他地域の参考となる活動事例を収集し、話題提供を行う。</p>   |  |  |
| <p>◎部局目標5</p> <p>共感による地域の活性化</p>         | <p>関連の施策・基本事業No 2-11</p> <p>管内で展開される各分野の個別プロジェクトを地域の共感のもとで進める<br/>(阿山地区)</p> | <p>〈これまでの経緯〉<br/>合併後、支所や小中学校の再編や、公共施設の統廃合が段階的に進められてきた。あやま文化センターや阿山ふるさとの森公園が休館、休業となっている。</p> <p>〈現状分析〉<br/>支所機能が段階的に縮小されている。旧玉滝小学校で民間事業が展開されている。新総合計画のもと「共感による公共マネジメント」が始まっている。あやま文化センターの利活用検討や、管内の保育所のあり方検討、管内の新たな交通体系に係る検討が始まる。</p> <p>〈課題〉<br/>廃校施設の利活用が進んでいない。公共施設の存続が求められている。地区住民の満足度が全体的に低い。(特に14公共交通、23住民自治・市民活動、25地域経済、30関係人口、31広聴広報が市全体と比べて低い)<br/>管内で展開される各分野の取り組みを地域の共感のもとで進めていく必要がある。<br/>ヒトモノカネに限られる中で支所機能の維持向上が求められている。</p> | <p>〈目標数値〉<br/>まちづくりアンケートの全33施策に係る地区住民の満足度を向上させる。<br/>※全38.6%、比較▲3.1P</p> <p>〈達成された状態〉<br/>地区住民の満足度が向上している。持続可能な行政サービスが展開されている。</p> <p>〈手段・工程〉<br/>①聞く…地域住民の声を傾聴する<br/>②届ける…現場の声を各プロジェクトや担当部に伝達する<br/>③進める…関係部局と課題を共有しながら、プロジェクトやサービスを向上させる</p> <p>【備考】<br/>個別プロジェクトと関係が深く、市全体と比べて地区住民の満足度が著しく低い下記施策の満足度の動向も捕捉する。<br/>14公共交通<br/>※現状17.0%、比較▲9.1P<br/>23住民自治・市民活動<br/>※現状35.2%、比較▲8.2P<br/>25地域経済<br/>※現状20.5%、比較▲10.0P<br/>30関係人口<br/>※現状12.5%、比較▲8.2P<br/>31広聴広報<br/>※現状29.5%、比較▲9.5P</p> |  |  |

|        |                  |   |   |
|--------|------------------|---|---|
| ◎部局目標6 | 関連の施策・基本事業No 3-8 | <p>〈これまでの経緯〉<br/>         定期的に住民自治協議会とのコミュニケーションを図り、補助金を活用した取り組み支援を行っている。<br/>         〈現状分析〉<br/>         ・担い手不足や財源不足から、申請件数が減少傾向となり、事業継続が困難となってきている。<br/>         〈課題〉<br/>         ・住民自治協議会とのコミュニケーションを強化し、地域の強み弱みを把握、事業継続に向けた柔軟な提案ができるよう信頼関係を築く必要がある。</p> | <p>〈目標数値〉<br/>         地域絆づくり補助金の次年度申請1件<br/>         キラッと輝け！地域応援補助金の次年度申請3件以上<br/>         〈達成された状態〉<br/>         魅力ある地域づくりの取り組みが行われている。<br/>         〈手段・工程〉<br/>         地域へのアプローチと協議・提案</p>   |
| ◎部局目標7 | 関連の施策・基本事業No 3-8 | <p>〈これまでの経緯〉<br/>         地域課題の解決に向け「キラッと輝け！地域応援補助金」や「伊賀市地域絆づくり補助金」の活用を呼びかけている。<br/>         〈現状分析〉<br/>         管内6地域ごとに課題や自治協内の体制が異なる。<br/>         〈課題〉<br/>         課題はあるものの、事業検討や申請事務が負担となり、補助金を活用できていない地域があるため、地域と行政が課題を共有する必要がある。</p>                  | <p>〈目標数値〉<br/>         「キラッと輝け！地域応援補助金」の次年度申請件数の増加(令和8年度4件)<br/>         〈達成された状態〉<br/>         地域課題が明確になり、課題解決のために取り組んでいる。<br/>         〈手段・工程〉<br/>         ・地域課題を洗い出し共有する。<br/>         ・補助金制度を案内し、課題解決のための有効活用について助言を行う。<br/>         ・補助金活用事業の伴走支援を行う。</p> |

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|  |  |